

いつもありがとうございます。

今月の5バリュー通信では、東京オフィスの紹介をさせていただいています。

東京駅から徒歩5分位ですので、東京に来られた時には、是非お立ち寄りいただければと思います。

さて、1月に「型破りな教室」という映画を観に行きました。梅田の映画館でしたが、妻と二人で周りに恥ずかしくなるほどボロボロ泣いてしまいました。お勧めです。

メキシコ映画でして（ちなみに当社にはメキシコ人の女性社員がおります）、多少ネタバレになりますが、2011年のメキシコの、米国との国境沿いの、治安最悪地域の小学校での実話がもとになっています。

生徒達は一人ひとり、日本では考えられないような過酷な境遇で、勉強どころではありません。親も先生たちも生徒達自身も教育には関心がなく、あきらめている感じなのですが、そんな中で主人公の先生だけは、独自の意志を持った「型破り」でユニークな授業を繰り返します。無機質な一般教育については「子供を歯車にする教育」と断じ、できるだけ避け続けます。生徒達に対してまず知識ではなく、物事に興味を持つことや学ぶ楽しさを教え、そして、将来の夢と希望を持つように訴えます。

どん底の境遇の子供たちは少しずつ勉強や学校が好きになり、将来の夢と希望も持つようになり、最後は学力についても飛躍的に伸びる結果となって終わります。

これが実話であるのが凄いのですが、私は、つくづく教育とは先生次第なのだなあと思いました。そして、この主人公の考え方や行動、生き方は我々FA（ファイナンシャルアドバイザー）にも大変参考になると思いました。FA一個人でもお客様に対して出来ることは無限にあるのかもしれない。

我々の運用哲学や提案内容は「債券中心」という保守的な内容であり、これについては変えようもありませんが、お客様との信頼関係の構築については、無機質な型にハマらないよう、そして決して「歯車」とはならないよう、時には「型破り」的なことも厭わずに仕事をしていきたいと思いました。

これからも5バリューアセットをよろしく願いいたします。

2025年2月17日



5バリューアセット株式会社
代表取締役 齊藤彰一